

介護への「理解力」／メディカルアロマセラピー／情報の集め方と活かし方

# CLINIC 今日と明日の開業医をサポートする ——最新クリニック総合情報誌

# BAMBOO

# ばんぼう

SEP. 2011  
VOL.366  
定価 1,020<sup>YEN</sup>

平成23年9月1日発行 通巻366号 毎月1回1日発行  
昭和58年2月14日第三種郵便物認可 ISSN・0912-8662

**特集** 高齢者ケアに欠かせない

# 介護への「理解力」

【第2特集】

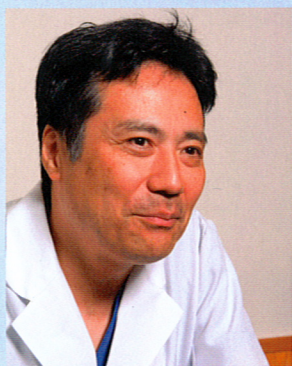
患者サービスの向上に貢献

## メディカル アロマセラピーの 可能性

【第3特集】

かかりつけ医機能を発揮するための  
最新医療情報の収集法

## 先駆者たちに聞く 「私の情報の集め方と活かし方」

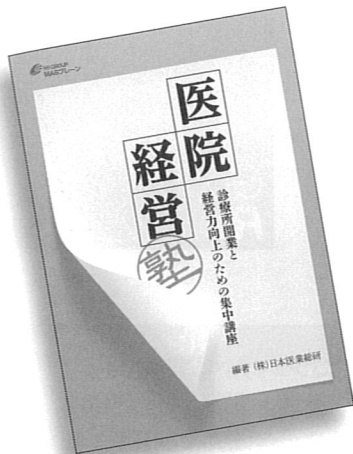


THE FAMILY DOCTOR

### 林 俊之

医療法人社団健康会 高橋医院  
院長





『医院経営塾  
診療所開業と経営力向上のための集中講座』  
(株)日本医業総研/MASブレーン/1,905円+税

●『医院経営塾』

「診療所経営力」を育む  
開業医のためのガイドブック

「医療経営塾」とは、同書の編著者が手がける株式会社日本医業総研が実施している、開業医向けの勉強会のことである。

同勉強会でもっとも重要視されているのは、「必ず成功を手に入れる」ための情報提供にある。当然のことであるが、診療所経営は開業が「ゴール」ではない。むしろ、大きな借入金や背負った「第二の人生」が、開業を契機にして始まるといったほうが正しい。同書は、診療所経営を軌道に乗せるために必要な情報を体系的にレクチャーしてきた。同勉強会のエッセンスをふんだんに盛り込んだ内容になっている。

本文は大きく分けて経営戦略、資金計画、人事労務、経営管理という4つのパートから構成されている。第1講では、経営をするうえで欠かせない経営理念の策

定方法やSWOT分析の手法、診療所のコンセプトメイクなどを豊富な事例とともに解説。続く第2講では、診療所運営にかかるランニングコストを総ざらいし、各コストの特徴をふまえたうえで損益分岐点の算出方法や資金の調達方法などを解説している。第3講では、診療所経営でもっとも苦労が絶えないといわれる人事労務について、労働基準法や社会保険など、スタツフを雇用するうえで押さえておくべき知識にくわえ、リーダーシップを発揮するための心構えに至るまでを紹介。そして第4講では、予実管理を行うために必要な損益計算書や貸借対照表の読み方、診療収入の仕組みなどが解説されている。

同社のコンサルティング経験から導き出された結論の一つが、診療所経営の成否は「院長の経営マインド」如何であるということ。「診療所経営力」を育てるためにも、開業前・後を問わずぜひ一読しておきたい。

●『共震ドクター 阪神、そして東北』

町医者者の視点から語る  
被災者の生活支援の重要性

兵庫県尼崎市で在宅療養支援診療所を営む著者が、東日本大震災から約1カ月半が経過した「人間の治療に例えるなら亜急性期」の被災地を回り、人々が「本当は何を困っているのか」「今後どんなことに困るようになるのか」を診たて、必要な手立てを提言する。



『共震ドクター  
阪神、そして東北』  
長尾和宏・熊田梨恵  
(株)ハス・メディア/1,400円+税

日頃、患者の生活状況まで踏み込んで診る「町医者」の目線、そして1995年の阪神淡路大震災を被災した自身の経験をもとにした提言は、具体的でストリートだ。

「生活基盤あつての医療・介護」であり、「生活基盤はまずお金」と説き、義援金の早期支給を訴える。模範例として震災4日後に3万円を市民に支給した福島県相馬市の取り組みを紹介する。市民約3万8000人に支給すべく現金2億円をかき集め、市職員が避難所を回って手渡しした一連の作業は、住民の安否

確認にも役立つという。

阪神淡路大震災における「生活の建て直しは自助努力で」とした当時の政府方針を「棄民政策」と斬り捨てる一方で、被災地で出会った80代男性に「東北人の粘り強さを見る。この人は家も船も流されたにもかかわらず、愚痴一つ言わず「船さえあれば今すぐ漁に出る」と意気軒昂なのだ。彼らに必要なのは生活保護ではなく生活基盤の保障と、繰り返し訴える。

そしてこうした「生活基盤を支えるための活動を支援することこそ医療者の最大の使命」「自分分は支援した」で終わってはもつた「いけない」と、医療界への呼びかけも忘れていない。